

講義名	心理学研究法		
担当教員	蜂屋 真		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

主題と概要

私たちの周りには、乳幼児、児童、青年、成人、老人など様々な人が暮らしているが、心理学にはこれらの人を対象にした、様々な心理学が存在している。これらの心理学は、実験、観察、調査など心理学固有の研究法を用い、数多くの心理現象や行動の法則を見出してきた。心理学研究法では、実験、観察、調査などの研究法の論理と手順、及び統計的分析の論理と手順を解説する。

到達目標

1. 実験を立案・実施できるようになる。
2. 観察を立案・実施できるようになる。
3. 調査を立案・実施できるようになる。

提出課題

実験、観察、調査に関する3つのレポートと、毎授業ごとの課題に対する回答を提出してもらおう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

蜂屋が、レポートと毎授業ごとの課題に対する回答を読んだ後、授業中にそれらの講評を行う。

評価の基準

3つのレポートと、毎回の授業時に出される課題に対する評価で行う。従って、学期末の定期試験を行わない。

履修にあたっての注意・助言他

授業は板書を中心に行われ、ノートを取ることが必要である。授業中に何度か課題（理解度試験）を行うが、これを予告なしにランダムに行う。従って、授業を欠席していると、単位取得が難しくなる。なお、教科書は授業に活用するので、教科書を必ず購入しておくこと。

教科書	. 社会心理学研究法	村田・山田・佐久間	福村出版	3000円

プリント資料及び参考文献

関連資料は授業中に配布する。
心理学研究法 高野・岡着 有斐閣アルマ

授業計画

- 心理学研究法：心理学の研究対象、研究領域、研究法
- 科学と実験：期間関係、因果関係、ミルの3原則
- 実験と観察：実験的研究、観察的研究
- 実験法（1）：実験とは、実験室実験、現場実験、質問紙実験（p78～p93）
- 実験法（2）：独立変数の操作、従属変数の測定、剰余変数の統制（p94～p111）
- 実験法（3）：独立変数の操作、従属変数の測定、剰余変数の統制（p94～p111）
- 実験法（4）：要因計画、被験者間計画、被験者内計画（p94～p111）
- 実験法（5）：準実験、単一事例実験
- 観察法（1）：観察とは、自然観察法、実験観察法
- 観察法（2）：時間見本法、事象見本法、参加観察法、サンプリング、妥当性・信頼性、観察者のバイアス
- 調査法（1）：調査とは、全数調査、標本調査、母集団、標本、確率標本、非確率標本（p26～p42）
- 調査法（2）：調査の流れ、目的の明確化、調査手法・対象者の決定、調査項目の決定、調査票の作成（p44～p62）
- 調査法（3）：調査の流れ、調査の実施、データの整理、クロス集計、エラボレーション（p63～p76）
- 統計的分析：記述統計、推測統計、統計的検定（p200～p215）
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実験、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業内容は、授業計画に付された教科書ページ箇所に対応する。1回の授業につき、予習として授業内容に対応する教科書の箇所を読んでおくこと（2時間）、復習として教科書を活用し、さらに関連書籍を学習すること（2時間）が必要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

心理コースのディプロマポリシーは2つあるが、その一つは、「人間の精神機能と心理学の研究法の知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測する基礎的能力を身につけている」である。心理学研究法の授業は、心理学の研究法の知識を提供しており、人間の心理と行動を科学的に分析し予測する能力を養う。従って、心理学研究法の授業は、上述のディプロマポリシーに深く関わっている。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考